

令和5年度第1回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 令和5年7月18日(火) 19:00~20:35

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4階大会議室

◆出席委員

杉山謙三委員、中村千鶴子委員、伊坂弘子委員、竹澤尚美委員、橋上裕委員、河井英利委員、村田典子委員、村田久美委員、西村幸泰委員、伊藤良栄委員、藤原寛仁委員、齋藤平委員、寺和奈委員

◆欠席委員

浦田宗昭委員、森口留美子委員

◆出席職員

情報戦略局(情報戦略局長、企画調整課長)

環境生活部(環境生活部長、環境生活部参事)、教育委員会事務局(事務部長)

健康福祉部(健康福祉部長)、危機管理部(危機管理部長)

産業観光部(産業観光部長、産業観光部理事)、都市整備部(都市整備部長)

総務部(総務部長)、上下水道部(上下水道部長)、消防本部(消防長)

◆議事概要

1 会長・副会長の選任について

会長に齋藤平委員、副会長に村田典子委員を選出。

1 第3次伊勢市総合計画・中期基本計画の進行管理

・中期基本計画の進行管理等について、事務局より説明

(1) 分野別計画の進行管理について

《意見・質問など》

○分野1 自治・人権・文化

・地域コミュニティを担う人材不足が顕著になってきており、地域活動の再構築を考えていかなければいけない。

・各地区で活動している女性団体の会員も高齢化が進んでおり、若い方が入ってこない。コロナ禍で3~4年間、活動が止まっており、再開はこれからとなっている。

・自治会活動に広く参加してもらうため、SNSの活用も考える必要がある。また、地域の人だけの活動は難しくなってきており、地域にある企業・店舗や高校など、いろんな資源の活用を提案していきたい。

・審議会等における女性の割合が増えない要因は何か？

→推薦依頼している団体に女性が少ない。様々な分野で女性が活躍してもらう取組が必要である。

○分野2 教育

- ・地区婦人会では、入学したばかりの小学1年生を対象に下校の見守り活動をしている。
- ・コロナ禍で教育現場のICT活用が急速に進んだが、それに対応する教員のスキルは身につけているか？
→教員によって得手・不得手はあるが、研修を繰り返し行っている。また、現場では、得意な教員が苦手な教員をフォローするなどに対応している。

○分野3 環境

- ・小学校などの出前講座で、ごみ分別などの紙芝居を見てもらって、取組の約束をしてもらっている。ごみ焼却時の燃料節約につながるので、生ごみの水切りの取組が進めばと考えている。

○分野4 医療・健康・福祉

- ・社会福祉協議会では、地域で活動できるサポーターを養成しているが、養成講座から地域活動へのマッチングが課題となっている。こども食堂などは、企業からの寄附やボランティアの申し出もある。ボランティアとして活動したい人もたくさんおり、どうやってマッチングしていけるか考えていく必要がある。
- ・伊勢地区医師会では休日夜間診療所の運営を担ったり、特定検診・がん検診の実施など、健康づくりを推進している。また、妊娠期から子育て期への切れ目ない支援の充実を進めてもらいたい。
- ・障がい福祉サービスを受けるための利用計画を作成する相談支援事業所が不足しており、サービスを利用したくても使えないという課題がある。
- ・介護業界では人材不足で獲得競争が激しい。介護に従事するには資格取得が必要であり、人材獲得のためには会社負担も検討していかないといけないと考えている。行政の支援があれば助かる。

○分野5 防災・防犯・消防

- ・地域での避難所運営マニュアルの策定は難しいと聞くが、状況はどうか？
→「避難所は市役所が運営するもの」という考えを持っている人が多く、「地域で運営するもの」という意識を醸成することが課題である。コロナ禍で会議が開けなかったので策定が進んでいないが、今後は避難訓練の再開から始めて取組を進めていきたい。
- ・マニュアルを作成してもうまく運営できない原因は、地域コミュニティの希薄化がある。コミュニティをどうやって維持していくかが喫緊の課題となっている。
- ・ヘルメット着用率が交通安全の大きな要素になるので、着用率を確認しながら対策を進めてほしい。
- ・観光客に対する防災にも目を向けてほしい。
→おはらい町における観光客向けの防災マニュアルを今後見直していくので、それを他の地域にも波及させていきたい。
- ・災害時には市と医師会が合同で救護所を設置することとなっているが、そこに要援護者名簿を配置してもらえると急病対応や薬準備に役立つと思われる。

○分野6 産業・経済

- ・新規就農者が少ないのは、単に儲からないから。肥料・資材の価格が高騰しているが、農産物は市場で価格が決定するので売価に転嫁しにくい。ブランド化できれば売価を上げることができるが、簡単にブランド化できない。現在、伊勢農協は四日市や大阪方面への出荷が多いが、地元に出荷できるのが一番いいので、伊勢山田青果を強化していくのも1つと考える。
- ・10月から導入されるインボイス制度への対応に小規模事業者が困っている。また、観光業界でも人材が不足している。今後、若い人をいかに獲得していくかが一番の課題と考えている。
- ・今年は、二見浜開き式（海水浴場）、高柳の夜店、神宮奉納花火大会なども開催でき、このまま順調に賑わいが戻ればと思う。また、市民の郷土愛を育て、その中から提案が上がってきて、市民の気持ち盛り上がるような施策につながる仕組みがあればと思う。
- ・雇用時間を柔軟にするなど、工夫によって人材の確保につながっている。以前と違って正社員で入社しても2～3年で辞めて都市圏へ出ていく人もあり、残念だと思っており、改善できればと思う。

○分野7 都市基盤

- ・全国的にみると地籍調査が進んでいない。
→三重県はこれまで取組が遅れており、伊勢市でも同じ状況にあり、今後、取組を進めていきたい。
- ・これまでバスロケーションの導入、コミュニティバス路線のダイヤ見直し、電気バスの導入などを進めてきた。観光客が増えてバス利用者は増えているが、コロナ禍前の水準と比べると3割減の状況にある。今後、インバウンドなどの集客の取組について一緒に考えていきたい。

○分野8 市役所運営

- ・SNSの登録者数が大きく伸びた要因は？
→防災行政無線の放送内容をLINEで情報発信したことなどが主な要因である。

(2) 分野横断課題の進行管理について

《意見・質問など》

なし